

## 2009年度 釜山大学校 PNU Summer Programに参加して

北海道教育大学函館校 国際文化・協力専攻 欧米文化分野 7162 村山友里枝

日時：8月10日～28日 参加者：21名（日本人13名、中国人1名、韓国人7名）

### 1. はじめに

このプログラムに参加しようと思った理由は、もともと韓国に対する興味があり、大学でも韓国語の授業を取っていたので、実際に自分の目で見て韓国を感じるにはいいチャンスだと思ったからです。韓国語の授業だけではなく、韓国の文化にも親しめるようなプログラムであったため、あまり迷うことなく応募しました。免除で参加できる人数が全学で2名と狭い枠でしたが、決まってからは韓国語の勉強や韓国の文化についての本を読むなどしました。準備段階では、一緒に行くことに決まった札幌校の先輩と連絡を取り合ってチケットの手配などをしました。

### 2. プログラムで受講した授業

午前中は韓国語の授業が2コマ（9：00～11：45）あり、午後は韓国の文化や歴史についての授業（アクティビティー）が用意されていました。

韓国語の授業は、初級と中級に分かれており、自己申告制で選ぶことができました。初級のクラスを取る予定でしたが、初日の授業を受けてみてほぼ理解できていたので、次の日から中級の授業を受けることにしました。韓国語の学習のバックグラウンドがみんなそれぞれ違ったので、各々にとって最適なレベルで授業を受けるということがなかなか難しかったように思いましたが、先生が色々と考えてくださったおかげで、中身の濃い授業を受けることが出来ました。中級のクラスは6名と少人数で、アットホームな雰囲気の中、実践的な内容について学びました。

アクティビティーは、韓国料理体験、テコンドー、韓紙を使った小物入れ作り、陶芸、韓国の伝統の楽器であるサムルノリ、ダンス、チマチョゴリなど毎日違ったものが用意されており、楽しむことが出来ました。韓国の歴史に関する授業や文化の授業もありました。英語で全ての授業が行われるとのことでしたが、ほとんどの授業は韓国語で行われていました。しかし、活動は実際に体験し、韓国文化に親しむことがメインであり、言葉が多少わからなくても困ることはなかったように思います。



韓国語中級クラスにて



チマチョゴリ体験



テコンドー

### 3. 釜山大学校での生活

大学での生活は、日本人2人に対し、韓国人1人のバディーが付き、そのバディーと一緒に行動することがほとんどでした。午後のアクティビティーも一緒に体験し、その後は買い物やノレバン（カラオケ）、カフェ、チムチルバン（韓国式サウナ）など色々なところへ連れて行ってくれました。今回の研修がとても充実していたと感じるのはバディーがいたからだと思います。私のことを「ゆりえオンニ（お姉ちゃん）」と呼んでくれ、姉妹のように仲良く過ごすことが出来ました。始めの頃は英語で会話していましたが、韓国語をせっかく学んでいるのだから、まず韓国語で話してもらい、わからなかったところだけ英語にするという方法でコミュニケーションを取っていました。それが良かったのか、3週間という短い期間でしたが、私の韓国語の伸びは自分でも実感できるくらいでした。また、彼女の家にも招待され、素晴らしい料理と暖かい笑顔で迎えてくれました。韓国にもこのような暖かい家族が出来たことを嬉しく思います。



寮の部屋

大学正門

バディーのHyeonaと

釜山大学校では、初めての寮生活を経験しました。寮は、話に聞いていたのとは異なり、とても新しく、セキュリティも整っているところで快適に過ごすことができました。また、パソコンを持っていけば自分の部屋でインターネットを繋ぐことができたのでとても便利でした。ただ、新しい寮は山の上の方にあつたので、毎日暑い中、大学まで歩いていくことが大変でした。

食事は、最初の週は寮の食堂でしたが、寮の食堂が利用出来なくなってからは、大学からクーポンを渡されて近くの食堂で食べました。毎食キムチが付き、ほとんどが辛いものであったため、日本食が恋しくなったことが何度もありましたが、今思うと様々な韓国料理を食べることが出来てよかったです。

また、週末は授業がないのでそれぞれ自由に過ごしていました。私は週末を利用して済州島や慶州へ旅行に出かけました。旅行では自分たちの力で何とかしなければならないので、道がわからなければどうやって行くのか尋ねたり、宿泊先や観光地でわからないことを訊いたり、注文したりと授業で習った韓国語を実践できたことは私にとって大きな自信につながりました。また、たくさんの世界遺産を見ることが出来、そのすごさ

に圧倒されました。



韓国の家族です！！



濟州島の自然



テジョンデ

#### 4. 釜山の都市の様子

釜山は韓国第二の都市であり、韓国最大の港町でもあります。アジア最大規模の海鮮市場であるチャガルチ市場は非常に活気があり、おばさんたちの威勢のいい声に驚きました。また、リゾート地である海雲台ビーチや日本海を見渡せる太宗台など観光名所もたくさんありました。韓国のお寺は沖縄の守礼門に似ているという印象を受けましたが、像の華やかさや色彩の使い方が日本とは異なり、比較すると大変興味深かったです。

交通は、地下鉄を利用するととても便利で、西面（繁華街）などに行くときにはよく利用していました。ソウルよりも路線が複雑ではないので比較的簡単に移動できると思います。また、タクシーもよく利用しました。基本料金が200円ほどなので、人数が多いときには地下鉄より安く便利でした。

また、釜山は訛があることでも知られています。最初は方言があるのでやはり聞き取りにくかったのですが、だんだん慣れてきて抑揚のある釜山弁がすっかり気に入ってしまいました。釜山弁にも親しむことが出来たのもまた楽しい思い出となりました。

釜山は本当に活気のあるところで、これからますます発展していけると感じました。日本に一番近い韓国の主要都市ということで、これからも日本との交流が盛んになることを願っています。

#### 5. 最後に、次回の研修生に伝えたいこと

このプログラムは3週間ですが、韓国文化の体験も出来る中身の濃いプログラムなので、本当にお勧めです。韓国に興味のある人には是非参加してもらいたいと思います。

しかし、3週間は本当に短く、やっと生活に慣れてきた頃に帰らなければならないというのは、本当につらい心境でした。短い期間の中でも充実させるためには、機会を大切にし、積極的になることが大切だと思います。受け身になるのではなく、何にでも挑戦し、「郷に入っては郷に従え」という言葉を心に留め、頑張ってください。

最後になりましたが、このプログラムを運営して下さった関係者のみなさまに感謝申し上げます。